令和５年度　第２回環境審議会議事録（議事要旨）

１　開催日時　令和６年３月１日（金）　午後２時00分～３時00分

２　開催場所　浦安市役所４階　Ｓ２～４会議室

３　出席者

（委　員）

宮川副会長、亀井委員、川口委員、島野委員、畑山委員、前田委員、志々目委員、中川委員、浜島委員、植木委員、菊間委員、田中委員、弦本委員

（事務局）

環境部長、環境部次長、環境保全課長、環境保全課 課長補佐、環境推進係長
温暖化対策係１名

４　次　第

・　開会
・　環境部長挨拶
・　議題
　（１）ゼロカーボンシティに向けた現状と今後の取組みについて
・　閉会

５　議題要旨

（１）ゼロカーボンシティに向けた現状と今後の取組みについて

事務局より、ゼロカーボンシティの推進に関するこれまでの取組み、最新の温室効果ガス排出量の状況、令和６年以降の取組みについて説明した。委員からの主な意見は以下のとおり。

（委　員）2030年度までの温室効果ガス削減目標の達成に向けた今後の見通しについて、どのように考えているのか。

（事務局）市役所の目標値については、令和６年度から３年間の取組みで、ある程度達成できる見込みである。令和８年度以降の取組みについては、この３年間の結果を検証して、さらなる削減策を検討していく。

（委　員）住宅用設備等脱炭素化促進事業の補助対象設備における、「住民の合意形成のための資料」とは何か。

（事務局）ＥＶ充電器の設置を考えているマンション管理組合等が住民の合意を得るため、図面等の作成に要した経費に対する補助である。

（委　員）公共施設への太陽光発電設備の設置について、公共施設全体の設置ポテンシャルがわかると、進捗状況が把握できることから、今後の取組みを考えるうえで参考になるのではないか。

（事務局）公共施設の新設や改修の際に、施設の電気使用量のうち、どのくらいを太陽光発電によってまかなうかという目標は特に設定はしておらず、置けるスペースがあれば設置するという状況である。また、公共施設全体における設置ポテンシャルについては、現状では把握していないが今後の取組みの参考とする。

（委　員）自治会集会所は、住民にとって一番身近な施設の一つでもあるので、太陽光発電

設備を設置することでＰＲ効果があるのではないか。また、ＬＥＤ化がなかなか進んでいない状況から、太陽光発電設備と併せて検討をお願いしたい。

（委　員）住宅用設備等脱炭素化促進事業に関して、令和４年度の補助件数が96件であるが、経年の数字はどのように推移しているのか。

（事務局）令和３年度は69件であった。これは補助対象設備全ての件数であり、設備によって補助金額が異なること、対象設備の見直しが行われていることから、単純に件数の比較によって事業評価をすることはできないと考えている。なお、令和４年度は断熱窓への改修が追加となり、件数としては令和３年度より増加した。

（委　員）事務事業における温室効果ガス排出量の状況に関して、一般廃棄物の焼却による排出量が、令和２年度から令和３年度にかけてほぼ半減し、令和４年度には微増しているが、この原因をどう捉えているのか。

（事務局）一般廃棄物の焼却による排出量は、廃プラスチック類の含有率なども影響しているが、どのようなことが原因で増減が生じているかという分析はできていない。

（委　員）新型コロナウイルスの影響により、テーマパークを含めた様々な事業が止まったことで、廃棄物の量にも影響を及ぼしたのではないかと推測される。

（委　員）原因を分析しないと対策が立てられないと思うので、もう少し細かく原因分析がなされると良い。

（副会長）断熱窓の補助件数が39件とあるが、これは窓の枚数なのか、住宅の数なのか。

（事務局）補助金を交付した住宅の数である。

（副会長）窓の枚数も重要であると思うので、それが示されているともっとわかりやすい。

（委　員）住宅用設備等脱炭素化促進事業に関して、令和４年度の補助総額が7,647千円であったのに対し、令和５年度の予算額は6,400千円となっている。この点について、減額の理由と今後の見通しはどのように考えているのか。

（事務局）この補助金は、千葉県の事業を市が窓口となって市民に交付しているものであるため、どうしても県の予算に影響されてしまう部分がある。県に対しては要望を行ってきているところではあるが、県内全体の市町村への配分の観点から、令和６年度についても、令和５年度と同程度と見込んでいる。

（委　員）集合住宅用のＥＶ充電設備に関する申請はこれまでにあったのか。

（事務局）問い合わせは何件かあったが、申請はまだ受けていない。

（委　員）廃棄物におけるプラスチック類の含有率については、重要な数値であるのでしっかりと分析していただきたい。また、今後の取組みのなかで、全ての公共施設にゼロカーボン電気を導入していく施策は、とても踏み込んだものであると認識しているが、再生可能エネルギー発電設備の設置等による削減効果を評価する点から、電気の切換えによる削減量と設備等の設置による削減量を分けて捉えると良いと思う。

≪環境ひろばin三番瀬について≫

事務局より、環境ひろばin三番瀬の開催要項（案）について説明した。委員からの主な意見は以下のとおり。

（委　員）このイベントは初めての開催となるのか。

（事務局）三番瀬を活用したイベントとしては、今年度に続いて２回目となる。イベント名称を変更してからの開催は初めてとなるが、イベントの趣旨は以前に開催していた環境フェアの流れを汲んだものと考えている。

（委　員）令和７年度以降も開催予定なのか。また、今年度はどのくらいの参加者があったのか。

（事務局）今後も開催していきたいと考えている。今年度は「Let’s Enjoy 三番瀬」という

名称で「三番瀬クリーンアップ大作戦」と同時開催で行ったところ、参加者は各ブース等の延べ人数で約4,000人であった。内容としては、三番瀬の護岸を開放して、干潟観察やカニ釣り体験、貝がらアート等の実施により、三番瀬の自然を知ってもらうことを目的に開催した。

（委　員）三番瀬は、「生物多様性」という重要なテーマがまず連想されるが、コンセプトテーマに「ゼロカーボン」という言葉があるのは少し違和感を覚える。三番瀬の豊かな自然をきっかけとして、ゼロカーボンを含めた環境全般のことについて知ってもらうという趣旨は理解できるが、市民は三番瀬とゼロカーボンがすぐには結びつかず、ミスリードを招きかねないと思うので、うまくイベントの説明をしていけると良い。

（委　員）ゼロカーボンは、根っこ部分で生物多様性はもちろん他の環境分野ともつながっており、市としてもゼロカーボンシティを表明して、進めていかなければいけない課題であることから、テーマの中に入っていて良いと思うが、「ゼロカーボン」という単語が少し専門的であるので、市民に馴染みのある単語で表現できると良い。

（委　員）「ゼロカーボン」には、ブルーカーボンがあるように「生物多様性」とも関連していることから、そういったつながりを表現できると良い。

（委　員）三番瀬での開催となると、どうしても自然環境にシフトした内容となるのは仕方がないことから、駅前など他の開催場所の検討も必要ではないか。今後も三番瀬で開催していくことは決まっているのか。

（事務局）三番瀬環境観察館は環境学習の拠点として整備していることから、今後しばらくはこの施設を活用していくことになると考えている。また、コンセプトテーマを含めたイベントの名称については、名称で内容が想起される側面もあることから、今後も検討していきたい。

（委　員）環境というテーマだけでなく、環境と健康を絡めたテーマを設定して開催すると、多くの方が興味を持つのではないかと思う。また、１ヵ所だけなく複数の場所でテーマごとに開催できると、スタンプラリーなどもできて面白い。

６　傍聴者

傍聴者１名

以　上